
~双剣覚醒発売記念企画~ バカとイメージと先導者VSゆるい口ウきゅーぶ

ベガF91

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「双剣覚醒発売記念企画」 バカとイメージと先導者VSゆるいロウきゅーぶ

【ZINE】

Z9851Z

【作者名】

ベガF91

【あらすじ】

カードファイト!! ヴァンガード第五弾『双剣覚醒』の発売を記念して書いた小説です。コラボ企画で今現在連載中の『バカとイメージと先導者』と『ゆるいロウきゅーぶ』のコラボです。それぞれのキャラクターたちがヴァンガードファイトします。

出番い編（前書き）

14日発売のカードファイト!! ヴァンガード第五弾『双剣覚醒』の発売を記念としてコラボ小説を書き上げました。

出合い編

それはある日のことだった。七森中の生徒会副会長の杉浦綾乃是嬉しそうにスキップをしていた。同じ生徒会メンバーである池田千歳とともに娛樂部へ向かう。

いつも娛樂部は慧心学園の女子バスケ部のコーチに行くため不在だったのだが、今回はコーチはないと聞いたため来ている。すべては京子に会うために。そして部室に着き、綾乃は勢いよく扉を開ける。

「京子あ！……ってあれ？」

思わず間抜けた声が出てしまつ。見てみると京子たちは何やら準備している様子であった。結衣とあかりは京子の指示に従つてテーブルを運んでおり、ちなつは掃除をしていた。

「ほひ、そこにおいて」

「てか、京子先輩何もしてないじゃないですか」

「え？ ちゅうと、何してるのよ……？」

「あ、綾乃ー」

京子が綾乃に気づく。そして綾乃は今何をやっているのか京子たちに聞いてみる。

「いったい何してるのよ。てかそのテーブルはなんなのよ」

「あー。それはその意味を知るためにあるんだよ」

「いや、そういう哲学的な答えを期待しているんじゃない」と穂乃

「すみません、遅れました」

（）で智花たち慧心学園の女子バスケ部のメンバーが来た。

「あ、来た来た」

「え？ 智花ちゃんたち。ビーフして？」

「みんなは持ってきたかな？」

「　　「　　「　　「　　」　　」　　」

京子の質問に答えるかのように何やらカードの「トッキケースみたいなものを京子たちに見せる。しかし、そのカードゲームを知らない綾乃是戸惑ってしまう。

「え！？ それ何？」

「あー。ヴァンガードや」

「へ？ ヴァンガード……？」

千歳は知っているようで綾乃是知らない様子。すると、千歳のポケットから「ツキケース」が出てくる。

「うわもやつてるんやで」

「え？ 千歳もつて……、京子たちもやつてるの？」

「うん。ほら」

京子たちもヴァンガードのデッキケースを取りだし綾乃に見せる。しかし、綾乃是全く知らないためかますます困惑ばかりである。

「ちょっとー なんなの！？ ヴァンガードつて！」

「何つてカードゲームだけビ」

「だからー！」

「あのー、七森中の娛樂部つてこいですか？」

すると、今度は別の学校の制服を着た生徒たちがやってくる。

「え？ 誰なの、あなたたち……？」

「おー。あきりんたち、待つてたよー」

「やあ、歳納さん……ってその呼び名はやめてつて言つてるじゃん

「まあまあ」

あきりんと呼ばれるその人物は茶髪に少し女性に見える顔立ちをした少年、吉井明久で他にもいろいろ個性豊かな人たちが14人いた。

すると、その制服を見た綾乃是思わずびっくりしてしまった。

「てか、その制服つて文月学園の生徒たちじゃないのー。」

「うん」

「明久君、この人たちが前話してた人たちなの？」

青い髪で可愛らしい容姿をした少年（？）、先導アイチが明久に声をかける。

「うん。アイチ、この子たちが前話した七森中の娛樂部と慧心学園の女子バスケ部だよ」

「いかにも、私が娛樂部の部長にして、この中学で一番の美少女、歳納京子だよん」

「こいつから美少女になつたんだ？」

「もひ、ひどいなー。ゆいにゃんは」

京子の自己紹介をした後、他のみんなもそれぞれ自己紹介をしていく。

「船見結衣です」

「赤座あかりです。京子ちゃんと結衣ちゃんとはひとつ年下の中学生です」

「あかりちゃんと同じく、吉川ちなみです」

「け、慧心学園初等部、湊智花です」

「同じく、三沢真帆でーす」

「永塚紗季です」

「か、香椎愛莉……です」

「ひなた、袴田ひなた」

七森中の娯楽部と慧心学園の紹介が済んだといひで今度はアイチたちの出番となる。

「僕は先導アイチです」

「櫂トシキだ」

「戸倉ミサキ」

「俺様は葛木カムイ。小学6年生だ」

「俺は三和タイシ。櫂とは昔からの親友さ」

「俺は森川カツミー。アイチは俺の一番弟子だ!」

「お~お~……俺は井崎コウタ」

「先導王ミーです。アイチの妹です」

「私はカードキャプタルの店長、新田シンです」

「僕たちは、もう知っているから紹介しなくてもいいかな、歳納さん」

「いや待て、明久。まだ知らない奴が2人いるだろ」

赤髪に背が高く逞しい体を持つ少年、坂本雄一がまだ顔見知りの綾乃と千歳を見て明久に言う。

「あー、ゴメン。じゃあ紹介するね。僕は吉井明久」

「俺は坂本雄一」

「姫路瑞希です」

「ワシは木下秀吉じや」

「…………土屋康太」

自分たちの自己紹介が終えると今度は綾乃たちも紹介していく。

「わ、私は杉浦綾乃。この中学校の生徒会副会長をしています……」

「うちは池田千歳。綾乃ちゃんと同じく生徒会メンバーで」

「よひしく、杉浦さん、池田さん」

「ここでようやく本題に入ると綾乃が京子に聞いてみると」

「それで、智花ちゃんたちはともかく、なんでこの人達もこの部室

に来てるわけ……？」

「あー、綾乃ちゃん聞いておらんかったっけ？」

「何を？」

「実は、1月14日に発売する、ヴァンガード第五弾『双剣覚醒』の発売を記念として別の小説の人たちとヴァンガードファイトするんだよ」

「それで、生徒会にはそのことを言つたんだけど……京子、綾乃には言わなかつたのか？」

「いやー、その時、綾乃は風邪で休んでたじゃん」

「な、なんでそういうことを早く言わないのよー！」

「せつかくだから、綾乃にびっくりさせようと思つて内緒にしてたんだー。まさしくサプライズヴァンガード」

「そんなサプライズ、いらないナイアガラよー！」

「ぶはつー！」

綾乃の馴熟落に結衣は思わず笑つてしまつ。すると、ここである一人の人物がここにやってきた。

「先輩、まだ娯楽部に……つて智花ちゃんたちとその人たちは……」

「あら、文月学園の生徒ですわね

生徒会メンバーである大室櫻子と古谷向日葵である。

「あ、櫻子ちゃんと向日葵ちゃん」

「ねえ、これ何が始まるの？」

「こんな大人數で何をするつもりなのですの？」

「どうこう」とか京子は櫻子と向日葵にも説明する。

「あー、ヴァンガードですか！」

「この前、櫻子とやつたあれですか？」

ええ！？ 大室さんと苗谷さんもやつてるの！？」

ヴァンガードを知らないのは綾乃ただ一人であつた。それは置いておき、さつそく発売記念企画のことを京子が話す。

「さてさて、全員集まつたところでヴァンガード第五弾『双剣覚醒』発売記念対決やつちゃうよー！」

「うおー！ 待ってたよ、きよーたん！」

「おー」

「それでどうあるの？」

ミサキが京子にルールの方を聞いてみる。

「よく聞いてくれました、ミサキーヌ」

「変なあだ名つけるなー。」

「まず、くじ引きを引いて、自分と同じ番号と一緒にの人とヴァンガードファイトする。どちらのチームにまじの抽選BOXから一枚引いてもらうか」

京子はいつもくじ引きで使っている赤い箱ともう一つ青い箱を取り出す。

「私たちのは」の赤い箱を。文月学園のみんなは」の青い箱からくじ引きしてもらうよ」

「なるほどね」

「それで同じ番号の子とヴァンガードファイトをするよ。そして先に5勝したチームが勝利だよ」

「あ、あの……そこは私が司会する感じや……。一応、そのために呼ばれているんですよ。てか、京子ちゃんむしのバトルに参加しますよね……？」

店長が京子にそんなことを言ひながら、京子はお構いなしに進めてしまひ。

「いいのいいの。シンシンにはあとでバトルの進行をしてもらつかりや」

「そ、そのあだ名で呼ばないでください……」

「じゃあ、引いてって」

このバトルに参加するみんな、箱からそれぞれ一枚ずつくじを引いていく。もちろん、京子も引いていった。そして、ようやく司会進行の座を京子からもらえた店長がしきる。

「みなさん、引きましたか？ それじゃあ、開いてください」

みんなくじを開いていき、対戦相手と順番が決まった。

第一回戦 木下秀吉 √S 香椎愛莉

第二回戦 坂本雄一 √S 褒田ひなた

第三回戦 土屋康太 √S 三沢真帆

第四回戦 姫路瑞希 √S 永塚紗季

第五回戦 吉井明久 √S 湊智花

第六回戦 葛木カムイ √S 吉川ちなつ

第七回戦 戸倉ミサキ √S 歳納京子

第八回戦 権トシキ √S 赤座あかり

第九回戦 先導アイチ √S 船見結衣

「ワシは香椎との対戦じゃな」

「俺は袴田か。 楽勝だぜ」

「よーし、負けないぞ。ツツチーー！」

あだ名はムツツリー「だが」

私の相手は姫路さんですね」

お用事いかにお願いします

僕は智花ちゃんだね

おれんには負けておせんよ

お兄さん
お兄さん
お兄さん
お兄さん
お兄さん

17

「…………なんてよけにやま」

「アサヒ、おへてにな」

たがひ
変なあた名で呼ぶな！」

あかりはなんか強そ二な人と二た二せや二たよ.....」

「大丈夫よ、あかりちゃん。見た目だけだと思うよ」

「私は先導アイチ君と対戦か」

そんなみんなも燃える中、それ以外の人は全員見学である。三和と綾乃が会話を始める。

「あなたたちも見学なの？」

「ああ。それより、京子ちゃんたちって強いのか？」

「わ、私はやつたことないし、それに京子たちがヴァンガードをやっているなんて初めて知ったし……」

「そつか」

「HIIちゃんだけ。アイチ君って強いの？」

「はい。アイチは今まで全国大会に行つたことがありますので」

「全国……す」「ねー」

「櫻子にはほど遠いですわね」

「なんだとー！」

いつの間にか櫻子と向日葵とHIIはとても仲良くなっていた。森川と井崎は視線を向日葵に向いていた。

(おこ、あれ見ろよ)

(なんだよ、森川……)

森川は向日葵に指差して小声で井崎と会話している。

(あの子がどうかしたのかよ?)

(よく見てみるよ。あの子、中一とか言っていたな。それにしても胸が大きくなないか?)

森川が注目していたのは向日葵の胸であった。さすがにそれを聞いた井崎は呆れてしまつ。

(お前な……)

(でも、すいぐないか!?)

(はあ……)

さすがに呆れる井崎。そして、千歳はあかりを応援していた。

「あかりちゃん。がんばってやー」

「あ、はい。千歳先輩」

あかりも応えて千歳に手を振る。それを見た三和は綾乃に聞いてみる。

「千歳ちゃんとあかりちゃんだけ? あの2人仲良いな」

「あー、あの2人付き合つてるみたいですよ」

それを聞いた櫻子が三和に答える。三和は思わず驚いてしまつ。

「ええ？ そうなのか？」

「わ、私だつて……京子と付き合つてるわよ……」

（そういうえば、この子たちつて百合小説のキャラだつけな）

三和も納得したといひで、店長が対戦ルールと賞品が披露される。三和も納得したといひで、店長が対戦ルールと賞品が披露される。では、ルールはチーム戦。どちらかが先に5勝した方が勝利です。なお、勝つたチームには、大会でもらえる全種類のPRカードが贈呈されます」

「おおおおー パープルたん、かわええーー！」

「京子、あれもひーー0枚持つてるんじゃないのか？」

「何枚あれば私はそれで幸せだよー」

「まつたく、京子は……」

京子の言つパープルたんとはPR第三弾のカードでなかなか手に入らないパープル・トラピージストである。京子は何度も参加して、もうすでに10枚もある。

「それでは、第一回戦の方は前に出てください」

さつそく第一回戦でヴァンガードファイトする秀吉と愛莉はテー

ブルの前に出る。

「よりしく頼むぞ、香椎」

「よろしくお願いします」

2人はファーストヴァンガードを前に置き、デッキをシャッフルし、山札から5枚引き、引き直しをした後でじゃんけんをしてから対戦がはじまる。

「それでは、レツツイイメージ、レツツヴァンガードー！」

「「スタンダップ、ザ・ヴァンガードー！」」

次回、秀吉／＼愛莉に続く。

出番い編（後書き）

次回、秀吉ＶＳ愛莉です。

2人がいったいどんなデッキを使うかお楽しみに

第一回戦 木下秀吉 vs 香椎愛莉（前書き）

第一回戦の始まりです。

第一回戦 木下秀吉vs香椎愛莉

ファーストカードを表に反し、秀吉と愛莉のファーストヴァンガードは秀吉はロゼンジ・メイガスで愛莉はドリーンヒッグであった。

「オラクルシンクタンクにたちがせや」

「えつど、それは何……？」

「クランだよ」

「へりん？」

「ユーティの所属している部隊」と

「要するに種族をあらわしてることね」

「そつこつこと。クランにはこうあるけれど、まずは対戦を見て説明してやるよ」

綾乃是三和にクランを教わり、秀吉と愛莉のファイトを見る。

「ワシのターン、ドロー。オラクルガーディアン・ジム！」
「ジヤ」

秀吉はロゼンジ・メイガスからジム！にライドし、ロゼンジ・メイガスをリアガードサークルに移動させてからターンを終える。
それを見た綾乃是また三和に聞き出す。

「ライドって何?」

「ヴァンガードとグレードが同じ、もしくは一つ上のグレードを持つゴニットを手札からヴァンガードの上に一枚重ねることで、ライドフェイズに行われ、1ターンに1回しか行えないんだよ」

「つまり、ロゼンジ・メイガスは0だから1であるあのなんとかジエミーでライドできるってことね」

「そうそう」

「私のターン、ドロー。ソニック・ノアにライド! ドラゴン・エッグはリアガードサークルに移動します」

「リアガード……?」

「ヴァンガードと共に戦うゴニットで、前列の左右に1体ずつと、後列の左右・中央に1体ずつ、計5体まで登場できるんだ」

「なるほど……」

綾乃が納得しているところで愛莉が攻撃に入る。

「ドラゴン・エッグのブーストでソニック・ノアでオラクルガーディアン・ジョンにアタック!」

「ノーガードじゃ」

「トリガーチェック、トリガーはなしです」

アタックがヒットし、秀吉にダメージ一枚のる。

「なんか、いろいろ出てきたわね。ブーストにトリガー……」

綾乃も真剣にヴァンガードファイトを見ながらヴァンガードを知つていく。

「私のターンは終了です」

「ワシのターンじゃな。ドロー。オラクルガーディアン・ワイズマンにライドじゃ！ そして、プロミス・データーをコールじゃ」

ワイズマンにライドされた後、プロミス・データーをコールする。そして攻撃に入る。

「ワイズマンでソニック・ノアにアタックじゃ」

「ノーガードです」

「トリガーチェック、ドロー。トリガージャ。+5000はプロミス・データーにそしてカードを一枚ドローじゃ」

カードを一枚引くと、すかさずプロミス・データーで攻撃に入る。

「ロゼンジ・メイガスのブースト、プロミス・データーでアタックじゃ。さらば、ロゼンジの効果で+3000じゃ」

「ノーガードです」

「プロミス・データーの攻撃がヒットし、愛莉のダメージはこれで2となる。」

「トリガーハードカードを一枚引く効果なの?」

「セセ。他にもダメージをプラスするクリティカル・トリガーやダメージ回復のヒール・トリガーに再びスタンダードできるスタンダード・トリガーがあるんだや」

「4種類ね」

「ワシのターンは終了じゃ。終了時、ロゼンジ・マイガスは山札に戻すぞ」

「私のターン、スタンダード&ドロー。餓竜メガレックスにライドします。さらに砲撃竜キヤノンギアをホールします。効果でドラゴン・エッグを退却させます」

「退却?」

「敵ユニットの攻撃や能力でワーカードが倒されるとかわす効果を使います。するとドロップゾーンに置かれるんだや」

「じゃあ、あの効果ダメなんだじや……」

「ドラゴン・エッグを退却せるとすかわす効果を使います。

「ドラゴン・エッグのカウンター・ブラストでドロップゾーンから手札に加えます」

「手札に加えた」

「それがたちかぜの戦い方や」

「よくわからないわ……」

そんな秀吉と愛莉のファイトを見て京子たちは……

「あの子、強いなー」

「そりゃあ、オラクルだからな」

「でも、愛莉ちゃんも負けてないよ」

「やつですよ、ここからが本番ですよ」

「アイリーン、がんばれーー！」

みんなに応援されながら、愛莉の攻撃に入る。

「メガレックスでワイズマンにアタックします」

「ノーガードじゃ」

「トリガー チェック、ヒールトリガー。パワーはキャノンギアに、そしてダメージ回復します」

「ダメージチェック。トリガーはなしじゃ」

「キャノンギアでワイヤズマンにアタックします！」

キャノンギアの攻撃でヒットしようとしたらが……

「オラクルガーディアン・ニケでガードじゃ」

ガードされ、攻撃は通らなかつた。

「ターン終了です」

「ワシのターン、スタンド&ロージャ。UEOアマテラスにライ
ドじゃー！」

UEOアマテラスにライドすると綾乃は思わず見惚れてしまつ。

「あ、あんなゴーリトがいるなんて……」

「かわいいですよね」

「ええ」

綾乃の会話にH!!が加わる。すると、H!!はもう少し詳しく述べる。

「オラクルはミサキさんも使つているんですよ」

「ミサキさん……あの髪の長い人ね。強いの？」

「はー」

綾乃とHIIIの会話の中、秀吉と愛莉のファイトは続く。

「アマテラスの効果で、山札上のカードをソウルに置き、山札の一番上をチェックし、上か下に置くのじゃ。これはこのままじゃ。そして、サイレント・トムにオラクルガーディアン・ジHIII、お天気お姉さんみるくをコールじや」

次々とリアガードをコールしていく、攻撃に入る。

「みるくのブースト、アマテラスでヴァンガードにアタックじや。さらに、ワシの手札は2枚。ドライブチェックで手札が4枚になるため、アマテラスの効果で+4000し、さらにみるくの効果で+4000されるのでアマテラスのパワーは24000じや」

「H、24000……！」

「やっぱアマテラス強いな……」

「ノーガードです」

「ツインドライブ。ファーストチェック、クリティカル・トリガーじゃ！ クリティカル効果はアマテラスにパワーはサイレント・トムに。セカンドチェック、トリガーはなしじや」

アタックがヒットし、愛莉のダメージはこれで3となる。秀吉の猛攻はまだ終わらなかつた。

「ジHIIIのブースト、サイレント・トムでヴァンガードニアタックじや！」

「ノーガードです」

「これで愛莉のダメージは4になる。」

「これでダメージ4……。でも、これで攻撃は……」

「いや、まだプロミスがいる」

「プロミス・データーのアタックじゃ。プロミス・データーの効果で手札からオラクルシンクタンクを一枚捨て、パワー + 5000 ジヤ」

パワーが上がり、これでパワーが14000となる。

「キヤノンギアでガードします」

ガーディアンを呼び、ガードをする。攻撃は通らなかつた。

「ターンarendじや」

「危ないな……」

「愛莉ちゃんのダメージはこれで4。次で決めないと確実に……」

「でも、まだわかりませんよ」

愛莉のターンとなる。

「私のターン、スタンド&ドロー。暴君デレックスにライドします！さらに餓竜ギガレックス、スカイプテラ、サベイジ・ウォー

リア、ソニック・ノアをゴールします

勝負を決めたいところ。愛莉は一気にリアガードをゴールする。

「行きます！ スカイプテラのブースト、キャノンギアでヴァンガードにアタック！」

「サイキック・バードでガードじゃ」

「うう……。ソニック・ノアのブースト、デスレックスでアタック！」

「ノーガードじゃ」

「ツインドライブ、ファーストチェック、セカンドチェック……クリティカル・トリガー！ クリティカル+1はデスレックスにそしてパワーはギガレックスに」

デスレックスの攻撃で秀吉のダメージは4にしかし、ギガレックスの攻撃だけではダメージ5のため、届かず。

結局、サイレント・トムに攻撃しただけで終わってしまった。

「ワシのターンじゃな。スタンド&ドロー。アマテラスの効果でソウルにおいてから山札の一一番上を確認じゃ。これは下に置く。ワイズマンをコールしてから、アマテラスでアタックじゃ」

「ノーガードです……」

「ツインドライブ、ファーストチェック、セカンドチェック……ドロー・トリガーじゃ。効果はプロミス・データーに。そして一枚ドロ

一じゃ

アマテラスの攻撃により、愛莉のダメージは5になる。そしてプロミス・データーの攻撃で結局、受けてしまい、負けてしまったのだつた。

「あつがとつぜこました」

「つむ、じつわじゅじゅ。ここファイトであつたぞ」

お互い握手を交わし、それぞれのチームに戻つていぐ。

「やつたね、秀吉」

「お」によ、もつオラクルを使いこなすなんて

「つむ、これも△倉のおかげじや」

「私は別に何もやつてないって

そして、愛莉たちの方は……

「！」「めんなさー……」

「いいよ。まだ一戦田だし」

「やつだよ。アイローン、元氣出しひ」

「次はひなたちやんだね」

「ふつふつふ、ひなたちゃんが秘密兵器の一つだとはアキリンチー
ムはいまだに知らない……」

「京子ちゃん、怖いよ……」

次は第一回戦、雄一→ひなたである。

「袴田、手加減はしないぜ」

「おー。ひな、まけないよー」

お互い、テッキをシャツフルし、5枚カードを引き、準備が整つ
たところでバトルに入る。

「2人とも、準備できましたか?」

「おー!」

「おー!」

「それでは、第一回戦、坂本雄一君→ひなたちゃんのバトル、
スタートです!」

「「スタンダップ、ザ・ヴァンガード!」」

この瞬間、ひなたのテッキがまさかのあのテッキだとはだれも予
期していなかつた……。

第一回戦 木下秀吉vs香椎愛莉（後書き）

次回は雄一vsひなたです。ただ、ひなたの「テッキはみなさんとはまったく予想していたのと違つ「テッキを使います（笑）

第一回戦 坂本雄一 vs 椎田ひなた（前書き）

前回は少しあかりずらかったりもあつましたが、今回ばかりはちゃんと改善します。ヴァンガードのプレイするところを書くのを初めてなもので……（汗）

第一回戦 坂本雄一 VS 椎田ひなた

第一回戦、雄一VSひなたのヴァンガードファイトが始まった。すると、ひなたのファーストヴァンガードはあれだった……。

「そ、それは……！」

「フルバウだよー」

フルバウと言えば、シャドウバラディン。ひなたの使用デッキはシャドウバラディンデッキだった。それを見たアイチやミサキたちは驚いてしまった。

「シャドウバラディン！？」

「なんであんな小さい子が……」

「ふつふつふ、こんなこともあろうかと、私がひなたちゃんにデッキを貸してやったのだー！」

「まつたく」

智花がどうして京子がひなたにデッキを貸したのかアイチたちに説明する。

「ひなたはこの日までにデッキがなかなか完成できなくて、それで京子さんが作つたシャドウバラディンデッキを貸したんです」

「アイツが……」

「歳納京子、恐ろしいやつだぜ……」

アイチたちが驚く中、雄一はひるまず、ファイトに集中する。

「ふん、いくらシャドウバラディーンでも相手は袴田だ！　俺は負けねえぜ！」

そんな雄一のファーストヴァンガードはリザードソルジャー・ロンロー。かげるうテッキである。最初は雄一のターンからとなる。

「俺のターン、ドロー！　鎧の化身バーにライド！　コンローはリアガードサークルに移動してターン終了だ」

「ひなのターン、ドロー。ブラスター・ジャベリンにライド。フルバウの効果でブラスター・ジャベリンにライドしたとき、テッキからブラスター・ダークを手札に加えるよ」

デッキからブラスター・ダークを手札に加え、テッキをシャッフルする。

「やはり来たか、ブラスター・ダーク……！」

「そして、フルバウがソウルにいるから、ブラスター・ジャベリンのパワーは常に + 2000 でパワー 8000。いくよ、ブラスター・ジャベリンでバーに攻撃！」

鎧の化身バー 8000 VS ブラスター・ジャベリン 80

「ノーガードだ」

「おー。ドライブチェック、クリティカルトリガー。効果は全部ブラスター・ジャベリンに」

「これでブラスター・ジャベリンのパワーは13000にしてクリティカルは2になり、バーに攻撃がヒットし、雄一のダメージはこれで2となる。」

「ショッパンからクリティカルを引かれるとは思いもしなかつたぜ……」

「ひなのターンはこれで終わりだよ」

「よし、俺のターン、ドロー！ ベリコウステイドラゴンにライドだ！ ここでコンローの効果を使つぜ。カウンターブラスト。コンローを退却し、デッキからグレード1以下のカードを手札に加える。俺はワイヤーナード・バリイを加える」

ワイヤーナード・バリイを手札に加えたら、デッキをシャッフルし、次のステップに入る。

「さらに、俺はバーをベリコウステイドラゴンの後列にコールし、左にはドラゴンナイト・ネハーレンをコールする。行くぜ！ バーのブースト、ベリコウステイドラゴンで攻撃だ！」

ベリコウステイドラゴン 17000 VS ブラスター・ジャベリン 8000

「おー。これはうけろよ」

「『ライブチョック！ トリガーはなしだ』

攻撃がヒットし、ひなたのダメージは1となる。

「Jでベリコウスティードラゴンの効果を使わせてもらうぜ。自分のダメージゾーンの1枚を表にする。そして、ネハーレンでプラスター・ジャベリンに攻撃だ！」

ドラゴンナイトネハーレン 10000 VS ブラスター・ジャベリン 8000

「おー。これもうけむ」

Jの攻撃も受けて、ひなたのダメージはこれまで2となる。これで雄一と並ぶ。

「俺のターンは終了だ」

「ひなのターン、スタンド&ドロー。いくよ、ブラスター・ダークハイド」

ブラスター・ダークにライドする。

「ブラスター・ダーク……！」

「やはり来たね」

アイチや明久たちも見守る中、綾乃はじつしてシャドウバラティンであんなに真剣なのか不思議に思う。

「な、なんでみんな真剣なのよ。それにシャドウパーティンツてどんな効果を持つてるの?」

「綾乃ちゃん、見ればわかるで」

「ああ、ちゃんと見ておきな」

「えつと……」

その後も、ひなたのターンは続いていく。

「さりに、髑髏の魔女ネヴァンをコール。ネヴァンの効果で手札を一枚捨て、山札から2枚ドロー。そして暗闇の騎士ルゴス、ネヴァンの後列に黒の賢者カロンをコール。ブラスター・ダークでヴァンガードに攻撃」

ブラスター・ダーク 10000 VS ベリコウスティードラゴン
ン 9000

「ノーガードだ」

「ドライブチェック、トリガーはなしだよ

攻撃がヒットし、雄一のダメージは3となる。

「せりに、ルゴスでヴァンガードに攻撃」

暗闇の騎士ルゴス 10000 VS ベリコウスティードラゴン
9000

「ノーガードだ」

攻撃を受け、ダメージは4になる。すると、ドロートリガーが来る。

「よし、ドロートリガーだ。カード一枚引き、パワーはベリコウステイドラゴンに」

ベリコウステイドラゴンのパワーは14000になる。これではネヴァンの攻撃は通らない。そのため、狙いをネハーレンに変える。

「おー。なら、カロンのブースト、ネヴァンでネハーレンに攻撃」

ドラゴンナイトネハーレン 10000 VS 魔體の魔女ネヴァン 11000

「それはアイアンテイル・ドラゴンでガードだ」

攻撃は通らなかつた。

「おー。ひなのターンは終わり」

「俺のターン、スタンド&ドロー！ 行くぜ、ドラゴニック・ウォーターフォウルにライドだ！」

ドラゴニック・ウォーターフォウルにライドする。

「さりに、ネハーレンの後列にバーをコールし、ここから攻撃だ。バーのブースト、ドラゴニック・ウォーターフォウルでヴァンガー

ドに攻撃！この時、ウォーターフォウルの効果で+3000で21000だ！」

ドラゴニック・ウォーターフォウル 21000 VS ブラスター・ダーク 10000

「おー。受けよ」

「ツインドライブ、ファーストチェック、セカンドチェック、トリガーはなしだ」

攻撃はヒットし、ひなたのダメージは3になる。

「ネハーレンでヴァンガードに攻撃！」

ドラゴンナイトネハーレン 10000 VS ブラスター・ダーク 10000

「おー。ネヴァンでインターセプト」

ネヴァンのインターセプトによるガードで防がれる。

「これでターン終了だ」

「おー。ひなのターン、スタンダ&ドロー。ファンタム・ブラスター・ドラゴンにライド」

ファンタム・ブラスター・ドラゴンにライドする。それを見て、誰もが息をのむ。

「来たね」

「うん」

「だ、だからなんでそんなに真剣になるのよ」

ただ一人、ヴァンガードを知らない綾乃はついていけず、ひなたのターンは続く。

「ネヴァンをコールして、効果を発動。手札一枚捨てて、カードを2枚ドロー」

「な、なんでファントム・ブラスターの効果を使わないの？」

「おー。まだまだチャージするの。ファントム・ブラスター・ドラゴンの後列にカロンをコールして、カロンのブースト、ファントム・ブラスター・ドラゴンでヴァンガードに攻撃」

ファントム・ブラスター・ドラゴン 19000 VS ドラゴニック・ウォーターフォウル 10000

「残念だが、バリイで完全防御！ 手札のかげるうを一枚捨てる」

「ツインドライブ、ファーストチェック、セカンドチェック、おー。クリティカルトリガー。効果はすべてルゴスに」

バリイによる完全防御で防がれるが、攻撃は続く。

「ルゴスでヴァンガードにアタック」

暗黒の騎士ルゴス 150000 VS ドラゴニック・ウォーターフォウル 10000

「これ受けたらまずいな、槍の化身ターでガードだ

ターで防がれる。その後、ネヴァンでリアガードのネハーレンに攻撃し、ヒットする。

「ひなのターンは終わり」

「よつしゃ、俺のターン、スタンド&ドロー！　じいで決めさせてもらうぜ、バーの前列にドラゴニック・エクスキュー・ショナー、そしてもう一体のエクスキュー・ショナーもコールだ！　準備は整ったぜ！　バーのブースト、ウォーターフォウルでヴァンガードに攻撃！　さらに効果を使い、手札にあるグレード3のかげろうを一枚捨て、パワー10000アップだ！　これでパワーは31000だ！」

ドラゴニック・ウォーターフォウル 31000 VS ファントム・ブラスター・ドラゴン 11000

「うわ……雄一ってば小さい子相手に容赦なしだよ

「櫂君に教わってるからね

「グレード3ばかりだけど、デッキ事故ってたのか？」

「いいぞー、もっとグレード3出してー

「森川……」

「おー。受けるよ」

「ツインドライブ、ファーストチェック、セカンドチェック、よし！クリティカルトリガー！クリティカルは当然、ウォーターフォウルに。そしてパワーは左前列のエクスキューショナーに！」

攻撃がヒットし、ひなたのダメージはこれで5になる。

「バーのブースト、エクスキューショナーでヴァンガードに攻撃だ！」

ドラゴニック・エクスキューショナー 25000 VS ファントム・ブラスター・ドラゴン 11000

「おー。マクリールで完全防衛」

「な、なにい！？」

あっけなく、攻撃を防がれた。その後もエクスキューショナーでルゴスを攻撃するも、それはネヴァンのインターフェプトで止められた。

「た、ターン終了だ……」

「雄」……

「子供相手にムキになるから」

「おー。ひなのターン、スタンダ&ドロー。ひなの切札ー」

「えー？」

その言葉にアイチたちは驚く。

「ファンタム・ブラスター・デラゴンが切れじゃないの……？」

「おー。じつちだよー。ファンタム・ブラスター・オーバーロードにライド」

ファンタム・ブラスター・オーバーロードにライドする。それを見て誰もが驚く。

「ふあ、ファンタム・ブラスター・オーバーロードまで持つてるのは……！」

「はっはっはー！ これがひなたちやんの力よー！」

「あれ京子が作ったデッキだろ」

「ファンタム・ブラスター・オーバーロードの効果で手札のファンタム・ブラスター・オーバーロード一枚捨て、これでクリティカル+1そしてパワー10000アップだよー」

ファンタム・ブラスター・オーバーロードのパワーはソウルにファンタム・ブラスター・ドラゴンがあるので+2000、そして、効果で+10000でパワーは23000となる。

「いくよー。カロンのブースト、ファンタム・ブラスター・オーバーロードでヴァンガードに攻撃」

ファンタム・ブラスター・オーバーロード 31000 VS
ドラゴニック・ウォーターフォウル 10000

「くそ……防げれねえ……」

その後のツインドライブはトリガーはなかつたが、攻撃はヒットし、雄一のダメージは6となり、勝負はひなたの勝利となる。

「勝者、袴田ひなたちゃん」

「おー。ひな勝ったー」

「負けた……」

2人ともそれぞれのチームに戻っていく。

「やつたねー、ひなたちやん」

「おー。きゅーいおねーちゃん、デッキありがとー」

「うん、どういたしまして」

ひなたは嬉しそうに京子に使ったデッキを返す。

「しかし、シャドウパーティーンなんてよく集められたな

「いやー、私の努力の結果ですよー。結衣さん

「はいはー」

そして、雄一は……

「すまん……」

「子供相手にムキになるからだよ」

「んな」と言われてもアイツがシャドウパーティイン使ってくるなんて聞いてねえぞ」

「まつたぐじやな」

「次は……」

「…………（スック）」

「ムツツリーーだね」

「よーし、負けないぞー」

第三回戦のムツツリーーと真帆が前に出る。お互に、デッキをシヤツフルし、5枚カードを引き、準備が整つたところでバトルに入る。

「2人とも、準備できましたか？」

「…………（ゴク）」

「いっでもオッケーだよ」

「それでは、第三回戦、土屋康太君VS三沢真帆ちゃんのバトル、

スタートです「

「（……）スタンダップ、ザ・ヴァンガード！」

第一回戦 坂本雄一 vs 梶田ひなた（後書き）

今日はうまくかけてるかちょっと心配です……（汗）

バカとイメージと先導者は明日更新します。

第三回戦 土屋康太 vs 三沢真帆（前書き）

今回初となるむらくもが登場します。

むらくもはWikieで効果を見て書いています。

第三回戦 土屋康太VS三沢真帆

真帆のファーストストップアングードはメカ・トレーナー。ムツツリー
ーは忍獣イビルフュレットである。

「む、初めて見るコニットだな」

「土屋さんはむらくもか」

「ねばたまと対するクランだつたね」

「真帆ちゃんはスパイクブラザーズか……」

「いつたいどんなファイトになるんだろ……」

さつそく、ムツツリーのターンで静寂の忍鬼シジママルにライ
ドし、イビルフュレットは右後列のリアガードサークルに移動させ、
ターンを終了させた。

「よし、アタシのターン！ ワンダー・ボイにまほまほライド！」

ワンダー・ボイにライドさせ、メカ・トレーナーを左後列のリ
アガードサークルに移動させてから、ヴァンガードに攻撃する。
トリガーはなしだが、ムツツリーのダメージは1となる。

「…………俺のターン、忍竜カースドブレスにライド。イビルフュ
レットの効果で山札の下に置き、手札から双剣士MUSASHIを
左前列にコールし、さらにシジママルをMUSASHIの後列にコ
ール」

「いきなりグレード3を……」

「…………カースドブレスでヴァンガードにアタック

「…………ノーガード」

「…………トリガー チェック。トリガーはなし」

「ダメージチェック、クリティカルトリガー。効果は全部ワンダー・ボーキに」

「…………カースドブレスの効果、ヴァンガードにヒットした時、山札の上から5枚めくり、その中から隠密魔竜マンダラロードがあれば手札に加える。あつた」

マンダラロードがあつたので手札に加える。

「…………シジママルのブースト、MUSASHIでアタック。効果でMUSASHIのパワーは+3000」

真帆にとっては初めて対戦するむらくもに困惑ばかり。それでもバトルスタイルを崩すことなかつた。

「ジャイロプリンガーでガード」

ガードされ、攻撃は通らず。真帆のダメージは1でムツツリーーのターンは終了した。

「アタシのターン、スタンダードローーー、至宝ブラックパンサーに

まほまほライド！ サラにハイスピードブラッキーをメカ・トレー
ナーの前列にコール！ ブラックパンサーでヴァンガードにアタッ
ク！」

「…………ノーガード」

「ドライブチェック、クリティカルトリガー！ クリティカルはパ
ンサーに、パワーはハイスピードブラッキーに」

「…………ダメージチェック、ドロートリガー。一枚ドローして、
パワーはカースドブレスに」

「なら、メカ・トレーナーのブースト、ハイスピードブラッキーで
カースドブレスにアタック！」

「…………ノーガード」

攻撃を受け、ムツツリーのダメージは3になる。

「ターン終了」

「…………俺のターン、隠密魔竜マンダラロードにライド

先ほど手札に加えたマンダラロードにライドする。

「むむ、来たな。マンダラロード」

（真帆ちゃん気を付けて。マンダラロードは……）

結衣が心配する中、ムツツリーはリアガードをコールする。

「…………シジママルの前列にMUSASHI、マンダラロードの後列にシジママル、忍獣ブラッティミストを右前列にコール」

さっそく、バトルに入る。

「…………シジママルのブースト、マンダラロードでヴァンガードにアタック」

「ノーガードだよん」

「…………ツインドライブ、ファーストチェック、セカンドチェック、クリティカルトリガー。クリティカルはマンダラロードに、パワーはMUSASHIに」

「ダメージチェック、1枚目、2枚目。ドロートリガー。1枚ドロ一し、パワーはパンサーに」

その後、MUSASHI、ブラッティミストで攻撃が続き、真帆のダメージは4となる。

「…………ターン終」

「アタシのターン、スタンド&ドロー。ツッティー、このターンで終わらせてもうひとつ！ 将軍ザイフリートこまほまほライドー！」

ザイフリートにライドされる。

「さりに、メカ・トレーナーのカウンターblast！ 山札からグレード1以下のスパイクブラザーズを1枚手札に加える。ダッシュ

「・ダンを加えそのままザイフリートの後列にコール。さらに、ブラッキーの後列にワンドー・ボーアイをコール！ ワンドー・ボーアイのブースト、ブラッキーでヴァンガードにアタック！ さらに効果を使い、パワー + 5000！」

22000という高いパワーにたいしてムツリーはノーガードし、攻撃を受ける。ブラッキーは効果で山札に戻る。

「よし、ダッドリー・ダンの効果！ カウンター・ブースト！ さらに、手札1枚をソウルに置き、ブーストした時、山札からスペイクブラザーズをコールする！ ジャガーノート・マキシマムをワンドー・ボーアイの前列にコール！ そして、ダッドリー・ダンのブースト、ザイフリートでアタック！」

「………… 忍獣リーブスマラージュで完全防衛」

「ぐぬぬ……」

ツインドライブの結果、クリティカルトリガーが出て、効果は全部ジャガーノート・マキシマムに。

「これで終わりだよ！ ワンドー・ボーアイのブースト、ジャガーノート・マキシマムでアタック！ さらに効果を使い、パワー + 5000！」

ジャガーノート・マキシマムのパワーはトリガー、効果、ブーストで29000に。しかし、ムツリーは表情を変えず、冷静だった。

「………… マンダラロードの効果、ガード開始時にカウンター・ブ

ラストで手札のマンダラロードを捨て、アタックしているコニットを選び、パワー・10000

「ええー!?

「…………ミダレエッジでガードし、ブラッティミストのインター
セプト」

効果によるパワーダウン、さらなるガードで攻撃が防がれてしまう。

「ええー!?
そんなのありなの!?

ジャガーノートは山札に戻してから真帆のターンは終了する。

「…………俺のターン。MUSASHIを右前列、ミダレエッジを
MUSASHIの後列にコール。バトル。ミダレエッジのブースト、
MUSASHIで攻撃」

「の、ノーガード……」

攻撃は受け、ダメージトリガーはなかつた。

「…………シジママルのブースト、マンダラロードでヴァンガード
にアタック」

「そ、それは……サイレンス・ジョーカーとソニック・ブレイカー
でガード!」

真帆の手札も4枚になり、ガードしていく。

「…………ツインドライブ、ファーストチョック、セカンドチョック、スタンドトリガー。右前列のMUSAHIをスタンドさせ、+ 5000」

「ウウ……」

手札は4枚だが、真帆の焦りの顔が出てきてしまっている。ムツツリー二の攻撃は続していく。

「シジママルのブースト、MUSAHIでアタック

「の、ノーガード……」

「ええ！？ ビーブー……！？」

攻撃を受け、ダメージは6枚目。勝ったのはムツツリー二だった。

「勝者、土屋康太君」

「…………（ガツツ）」

「む、無理だよ……」

真帆の手札を見てみれば、全部がグレード1。これでは防ぎようがなかったようだ。両社はチームに戻っていく。

「『めんね、ゆいにゃん、きょーたん……』

「いいよ。真帆ちゃんも頑張ったよ」

「そうだよ」

「次は私ね。真帆の分も頑張つてくれるから」

そしてムツツリーーは

「やつたね、ムツツリーー」

「…………（「ク）」

「それにしても、僕たちが後半で相手する娛樂部だけ。なんだかあの子たちよりも強い気が……」

「アイチ…………？」

「では、次は私ですね」

「瑞希、頑張つてね」

「はい」

さつそく瑞希と紗季は前に出て、ファイトの準備をしていく。F▽を置き、デッキをシャッフルしてからデッキから5枚手札に加え、引き直しをした後、バトルに入る。

「2人とも準備はできましたか?」

「「はい」」

「それでは、第四回戦、姫路瑞希さんvs永塚紗季ちゃんのバトル、
スタートです」

「「スタンダップ、ザ・ヴァンガード！」」

第三回戦 土屋康太▽S三沢真帆（後書き）

むらくもの立ち回りはこんな感じで書き上げました。

自分の考えたむらくもで書いていますのでむらくもは人それぞれかもです。

第四回戦 姫路瑞希vs永塚紗季（前書き）

こいつになつたらマジハスティの効果公開するんだ……（汗）

第四回戦 姫路瑞希VS永塚紗季

瑞希と紗季のファイトが始まり、それぞれのファーストヴァンガードは瑞希はヴァーミリオン・ゲートキーパー、紗季は冥界の支配人である。

「ダークイレギュラーズにペイルムーンか……」

「同じ国家同士だね」

最初のターンは紗季からであった。

「私のターン、スカル・ジャグラにライドします。冥界の支配人、スカル・ジャグラの効果で山札から一枚ずつソウルチャージして、ターン終了です」

最初から2枚ソウルチャージし、紗季のターンは終了する。

「では、私のターン、誘惑のサキュバスにライドします。こちらもそれぞれの効果でソウルチャージし、バトルに入ります。サキュバスでジャグラにアタックします」

「ノーガードです」

「トリガーチェック、トリガーはなしです」

「ダメージチェック、トリガーはなし」

「ターン終了です」

瑞希も紗季と同じく、ソウルチャージし、ヴァンガードにアタックしてターン終了した。

「なんか、動きが同じね……」

「ダークイレギュラーズもペイルムーンもソウルチャージが重要なクラシックやからな」

「私のターン、エレファント・ジャグラーやライドします。さらにラーケ・ビジョン、バーキングケルベロスをコール。エレファント・ジャグラーやの効果、リアガードにコールしたペイルムーン1体に着き、ソウルチャージ」

紗季はさらにソウルをため、これでソウルは6枚となつた。

「さらりに、パープル・トラピージストをコールします」

「来たー！　パープルたん来たー！」

「本当に京子はパープルが好きなんだな」

京子が興奮する中、エレファント・ジャグラーやの効果でソウルチャージをした後、紗季はパープルの効果を使う。

「パープル・トラピージストの効果で、ラーケ・ビジョンをソウルに置き、ソウルからナイトメアドールありますをパープルの前列にコールします」

パープルの効果でいきなりグレード3のナイトメアドールあります

がリアガードにスペリオルコールされた。

ここでありますがリアガードにコールされたのでエレファント・ジヤグラの効果で一枚ソウルチャージする。

「ここから攻撃に入ります。バーキング・ケルベロスでヴァンガードにアタック！」

「ノーガードです」

ケルベロスの攻撃を受け、瑞希のダメージは1となる。

「エレファント・ジャグラでアタック！」

「ノーガードです」

「トリガーチェック、ドロートリガー。パワーはありますに、そして一枚ドローー」

瑞希のダメージはこれで2となる。

「パークル・トラピージストのブースト、ありますアタック！」

ありますパワーは21000。防ぐには15000は必要だが……。

「ヒステリック・シャーリー、冥界のペペツトマスターでガードします」

ガードして、ダメージは2にどぎました。

「ターン終了です」

いきなり押され氣味の瑞希を明久たちは心配していた。

「大丈夫かな、瑞希……」

「うん……」

「ソウルはすでに8枚な上、パープル・トラピージストは厄介よ」

「なんだかアイツも鬼強じやねえか」

アイチやカムイも驚いている中、瑞希も負けてはいなかつた。

「私のスタンド&ドロー。退廃のサキュバスにライドします。さらに、ヴェアヴォルフ・ズィーガー、その後列にプリズナー・ビーストをコールします。サキュバスの効果でソウルチャージします」

同じく、ソウルチャージはするものの、紗季のようによくはソウルチャージはできなかつた。そして、攻撃に入る。

「いきます。プリズナーのブースト、ズィーガーでヴァンガードにアタックします」

「ファーブ・マジシャンでガードします」

「退廃のサキュバスでヴァンガードにアタックします」

「ノーガードです」

「トリガーチェック、トリガーはなしです」

紗季のダメージはこれまでとなる。

「ターンは終了です」

瑞希のターンが終了する。これを見た綾乃はまつたくついていけなかつた。

「うーん、紗季ちゃんも姫路さんもなんであんなにソウルチャージを……」

「それがダークイレギュラーズとペイルムーンの特徴だからぞ」

「特徴ねー」

三和に教えられるも、ヴァンガードのことは知らない綾乃にはちんぶんかんぶんであつた。そして、紗季のターンに入る。

「私のスタンド＆ドロー。宵闇の奇術師ロベルにライドします。ロベルの効果でソウルチャージし、山札の一一番上を確認、これはそのままに」

山札の一一番上を確認した後、リアガードをコールしていく。

「パー・ブル・ト・ラ・ピージストをコールします」

「2枚目のパー・ブルたん来た　！」

「お前はおとなしくしろ」

「もう1体のパーティルをソウルに置き、ソウルからミッドナイト・バーをロベルの後列にコールします。パーティルのブースト、パーティキング・ケルベロスでヴァンガードにアタック！」

「ノーガードです」

瑞希のダメージは3となる。

「ミッドナイト・バーのブースト、ロベルでヴァンガードにアタックします！」

「うう……」

さすがのこの攻撃を受けるとダメージは4となる。ならばバーの効果でスペリオルコールされるので攻撃を防ぐことに。

「悪魔の国のダーククイーンでガードします」

「ツインドライブ、ファーストチェック、セカンドチェック、トリガーはなしです」

ここでトリガーが引かれれば攻撃を通り切ったところだろう。だが、まだありますがいる。

「ありますアタック！」

あります効果も攻撃が通ればスペリオルコールされる。だが、ここは通すことには。

「ノーガードです」

攻撃が通り、ドロートリガーがでて一枚引き、ダメージは4となる。ここでありすの効果が発動される。

「ありすの効果。ありすをソウルに置き、ソウルからスペリオルコールすることができる。私はパー・プル・トラピージストをコールします。さらにパー・プルの効果で、もう1体のパー・プルをソウルに置き、ソウルからありすをコールします」

再びありすがコールされる。

「パー・プルのブースト、ありすでヴァンガードにアタックしますー！」

「ヒステリック・シャーリーでガードします」

防いだものの、ダメージと手札の消費は大きかった。

「なんだか、紗季ちゃん強いわね……」

「ペイルムーンの特性を理解しきつてどるわ」

「紗季ちゃん鬼強すぎだろ……」

「Jで瑞希のターンに入る。

「私のスタンダードロー、私は……双翅の王ベルゼバブにライドします！」

ベルゼバブにライドするも、まだ紗季の有利に変わりはなかつた。

「ベルゼバブでヴァンガードにアタックします！ 効果を使い、ズイーガーとプリズナーのパワーを+3000します」

「これはノーガードです」

「ツインドライブ、ファーストチェック、セカンドチェック、クリティカルトリガー！ クリティカルはベルゼバブにパワーはズイーガーに！」

しかし、与えるダメージは4。ズイーガーの攻撃でもダメージは5にとどまってしまう。結局、ズイーガーの攻撃はケルベロスのインターフェット、お菓子なピエロ、レインボーマジシャンでガードされる。

「ターン終了です……」

「ふふ、この勝負、もらいましたよ。私のスタンド&ドロー＝ミストレス・ハリケーンにライドします！」

紗季はミストレス・ハリケーンにライドする。すかさず効果を使う。

「ミストレス・ハリケーンの効果、ソウルからペイルムーンをコールします。私はソウルからバークリング・ケルベロスをコール！ 行きます！ ケルベロスでヴァンガードにアタック！」

「ず、ズイーガーでインターフェットします」

「なら、ミッドナイト・バーのブースト、ミストレス・ハリケー

ンでヴァンガードにアタックします！」

「の、ノーガードです……」

「ツインドライブ、ファーストチェック、セカンドチェック、ゲット！クリティカルトリガー！」

ここでクリティカルトリガーを引いた。瑞希のダメージは6となる。

「勝者、永塚紗季ちゃん」

「やつた！」

「うう……」

勝負が終わり、お互い自分のチームに戻っていく。

「やつたね、紗季ちゃん」

「サキー。やつたなー」

「真帆の分も頑張ったわよ」

「これで2勝2敗だね」

「11で1勝すれば3勝2敗……！」

「次は私ですね」

「智花ちゃん、頑張つて

「はー」

そして、瑞希は……

「『』めんなさい、明久君……」

「いいよ。瑞希も頑張つたんだし」

「それにしても、紗季つてやつ強い……」

「次は明久君だね。がんばつて」

「うん、頑張つてくれるよ」

明久と智花は前に出て、ファイトの準備をする。テッキをシャツフルし、5枚引いたら引き直しをして準備が整う。

「吉井さん」の勝負、負けません

「それはこいつの台詞だよ、智花ちゃん」

「2人とも、準備はできましたか?」

「「はい」」

「それでは、第五回戦、吉井明久君VS湊智花ちゃんのバトル、スタートです」

「「スタンダップ、ザ・ヴァンガード！」」

第四回戦 姫路瑞希VS永塚紗季（後輩モード）

次回のバトルが終わったらこよこのチームQ4 VS 娯楽部のバトルが始まります。

ただ、ペイルムーンの立ち回りがチートすぎてしましました……（汗）

第五回戦 吉井明久 vs 湊智花（前書き）

いよいよ今週でヴァンガード第五弾の発売……！

第五回戦 吉井明久VS湊智花

明久と智花のファイトが始まり、明久のファーストストップアングードはぶるうがる。智花は神鷹一拍子であった。

「智花ちゃんはオラクルかー」

「吉井さん、この勝負私が勝ちます！」

「ロゼンジージャない……？」

「智花ちゃんはツクヨミ軸やな」

「ツクヨミ？ なにそれ？」

綾乃がついていく様子の中、明久のターンからスタートされる。

「僕のターン、湖の巫女リアンにライド。ぶるうがるはリアガードサークルに移動させ、リアンの効果でレスト、手札一枚を捨てカード一枚引く。これで僕のターンは終了だよ」

「私のターン、神鷹一拍子の効果を使います。山札5枚見て、その中から三日月の女神ツクヨミがあればスペリオルライドできる……よし、5枚から三日月の女神ツクヨミにライドします。ツクヨミでリアンにアタック」

「ノーガード」

「トリガーチェック、クリティカルトリガー。すべての効果をツクヨミに」

ツクヨミの攻撃がヒットし、さらにクリティカルトリガーでダメージは2となる。

「ターン終了です」

「僕のターン、沈黙の騎士ギヤラティンにライド。さらにハイドッグブリーダーアカネをコール。アカネの効果、山札からハイビーストをコールする。僕はといふがるをコール。ぶるうがるのブースト、ギヤラティンでヴァンガードにアタック！」

「ノーガードです」

「トリガーチェック、トリガーはなし」

智花のダメージは1となり、明久の攻撃は続く。

「といふがるのブースト、アカネでヴァンガードにアタック」

「ノーガードです」

これも受けると、ドロートリガーが出る。

「ドロートリガー。パワーはツクヨミに、さらにカード一枚ドローします」

「僕のターンは終了」

「私のターン、ツクヨミの効果で山札5枚を確認します。半月の女神はありませんでした。手札からメイテン・オブ・ライブラにライドします」

「ふふ、半月は不発のようだね」

「せりにオラクルガーディアンレッドアイにダーク・キャットをコールします。ダーク・キャットの効果でお互いのプレイヤーはカードを1枚ドローします」

「じゃ、僕も引くね」

お互い、カードを1枚ドローすると、智花の攻撃に入る。

「ライブラでギャラティンにアタック！」

「ノーガード」

「トリガーチェック、トリガーハンディ」

トリガーではないため、攻撃は通らなかつた。

「ダーク・キヤットのブースト、レッドアイでヴァンガードにアタック！」

「ノーガード」

攻撃はとおり、これでダメージは3になる。せりにレッドアイの効果により、ソウルチャージをして智花のターンは終了する。

「僕のターン、スタンダード&ドロー。僕は騎士王アルフレッドにライドするよー。」

騎士王アルフレッドにライドされる。

「あー、アルフレッドだー！」

「櫻子、あのユニット好きでしたわね」

「だつて、私の切り札だもん！ やっぱアルフレッドかっこいいなー」

「僕は爆炎の剣士バロミアトスといふがるをコール！ 行くよ、アルフレッドでヴァンガードにアタック！」

「ノーガードです」

「ツインドライブ、ファーストチェック、セカンドチェック、トリガーはなし」

運の悪いことに、トリガーはなかつた。それでも明久の攻撃はまだ続く。

「といふがるのブースト、バロミアテスでヴァンガードにアタック！」

「た、高い……。ノーガードです」

ダメージは4枚目になる。

「といふがるのブースト、アカネでアタック！」

「バトルシステムーじんじゃーでガードしますー。」

「ターン終了」「

「私のターン、行きます！ 花占いの女神サクヤにライドしますー。」

意外にも、満月の女神ツクヨミではなくサクヤであった。

「え、サクヤー！？」

「満月じゃないの……？」

「ツクヨミはもともとテッキ事故防止用に入れているだけです。では、行きます！ サクヤの効果で自分のすべてのリアガードを手札に加えます！ そして、再びレッドアイビーダーク・キヤットをホールします！」

再びダーク・キヤットの効果でお互い1枚カードをドローすると、智花はさらにリアガードを増やしていく。

「さらにメテオブレイク・ウイザード、オラクルガーディアンジエミー、三日月の女神ツクヨミをホールします」

これで智花のリアガードは5体となる。ここで攻撃が始まる。

「行きます、ツクヨミのブースト、サクヤでヴァンガードにアタックします！」

「ノーガード」

「ツインドライブ、ファーストチエック、セカンドチエック、ヒルトリガ。ダメージを回復し、パワーをメテオブレイクに！」

明久のダメージは4となる。

「ジエミーのブースト、メテオブレイク・ウイザードでバロミテスにアタックします！　さらにウイザードのカウンター・ブラストの効果で+3000し、パワーは26000です」

「く……。バロミテスをやらせるわけにはいかないな……。エポナ、マロン、さらにアカネのインター・セプトでガード！」

攻撃を防がれ、バロミテスはどうもった。

「なら、ダーク・キャットのブースト、レッドアイでヴァンガードにアタックします！」

「うーん、ここはノーガードでいいかな」

攻撃を受け、ダメージは5となる。

「私のターンは終了です」

「なら僕のターン、アルフレッドのカウンターブラストの効果を使い、山札からグレード2以下のロイヤルパラティンをコールする！　僕は真理の騎士「コーデンをコール！」

せりに「コーデンをコールし、バトルに入る。

「アルフレッドでヴァンガードにアタック！」

「…………バトルシスターしょこらで完全防御します！」

手札を一枚捨て、しょこらで完全防御する。

「ツインドライブ、ファーストチエック、セカンドチエック、ヒートトリガー、ダメージ回復して、パワーはバロミテスに。そしてといふがるのブースト、バロミテスでアタック！ バロミテスの効果とトリガーの分で27000だ！」

「う……ノーガードです……」

智花のダメージは4枚目となる。さらにゴーデンの攻撃が続き、それもノーガードで通し、ダメージは5となる。

「僕のターンは終了」

「あのバカ、なんでウイザードをやらねーんだよ」

「でも、まだ手札は8枚……」

「相手も手札は6枚じゃぞ」

「では、私のターン、私は花占いの女神サクヤにライドします！」

再び、サクヤにライドする。

「またサクヤ！？」

その後、再びメテオブレイク・ウィザード、オラクルガーディアンジヒミー、三田月の女神ツクヨミがコールされ、ここからは違っていた。

「邪眼の美姫エウリュアレーをコールします！ エウリュアレーの効果、相手の手札一枚をバインドします！」

「え！？」

「そのカードをバインドします！」

「そ、そんな……！」

明久の手札はバインドされる。ちなみにバインドされたカードはイゾルデであった。

「その後列にジヒミーをコールしたところでバトルに入れます！ ジヒミーのブースト、エウリュアレーでゴードンにアタックします！」

「うう……ノーガード……」

ゴードンが倒される。

「ツクヨミのブースト、サクヤでヴァンガードにアタックします！」

「エリは、アラバスター・オウルとマロンでガード！」

「ツインドライブ、ファーストチェック、セカンドチェック、クリティカルトリガー！ でも、攻撃は通らない……なら、ウィザード

にすべての効果をつけます！」

「これでウイザードのパワーはブーストと効果を使えば26000。しかもクリティカルもついている。

「ジエミーのブースト、ウイザードでヴァンガードにアタックします！」「ここでウイザードの効果を使い、+3000です！」

「ここで終わつた……と思いまや……」

「アラバスター・オウルとエポナでガード！」

「ええ！？」

ガードされ、攻撃は通らなかつた。

「うう……ターン終了です」

「あ、危なかつた……。ふふ、悪いけどここで決めさせるよ、智花ちゃん。ファイナルターン！」

明久のファイナルターン宣言する。

「僕のターン、騎士王アルフレッドを「ホール・ヴァンガードのアルフレッドでヴァンガードにアタック！」

「まだまだですよ！ロゼンジ・メイガス、レッドアイ、ジエミーでガードします！」

「く……、ツインドライブ！ファーストチェック、クリティカル

トリガー！ これは全部バロミニテスに！ セカンドチェック……
…よし、クリティカルトリガー！」

「ふええ！？」

「効果はリアガードのアルフレッドに… といぶがるのブースト、
バロミニテスでアタック！」

「うう……ノーガードです……」

攻撃はとおり、これでダメージは6枚目になる。

「勝者、吉井明久君！」

「危なかつた……」

「まさかクリティカル2枚引かれるなんて……」

智花の手札はしょこらにサイキック・バードとウィザードがあつた。もしトリガーが1枚も来なかつたら明久は負けていただろう。お互い、自分のチームに戻る。

「すみません、結衣さん」

「ううん、智花ちゃんは最後まで頑張ったよ」

「そーだよ、もつかん」

「次はちなつちゃんだね」

「うん。結衣先輩！ 私、頑張つてきますー！」

「頑張つて」

「ちなつちやーん、頑張つてねー」

そして明久は……

「いやー、なんとか勝つたよ」

「なんとかじやねえよー」

「ええ！？ ほめないの……？」

「ほめるも何も、あの時、トリガーが来なければ負けてただろうに！ しかも、なんで最初からバロニアースからやるんだよー？ 普通はアルフレッドからだろ！」

「でも、勝ったからいいじゃないか！」

明久と雄一が喧嘩している中、カムイが準備している。

「よつしゃーー！ ゆづやく俺の出番だなー！」

「頑張つて、カムイ君」

「はーー！ でも残念ですかび、お兄さんと櫂の出番はあつませよ。俺とミサキさんで決めるぜー！」

両者とも、前に出る。

「ちなつといつたな。悪いけど、残りの2戦は勝たせてもううまい。」

「ふふ、カムイ君には悪いけど私が勝つよ」

「へんー、やれるものならやつてみるってんだー！」

お互い、デッキをシャッフルし、5枚引いたら引き直しをしたところで準備が整つ。

「2人とも、準備はできましたか？」

「おうー！」

「いつでもいいですよ」

「それでは、第六回戦にしてここからチームQ4VS 娯楽部の初戦、葛木カムイ君VS吉川ちなさんのバトル、スタートです」

「「スタンダップ、ザ・ヴァンガード！」」

第五回戦 吉井明久ＶＳ湊智花（後書き）

いよいよ次回からチームQ4 VS 娯楽部のバトルが始まります。 娯楽部のみんなは強い設定にしています。

第六回戦 葛木カムイvs吉川ちなつ（前書き）

マジヒースティーデッキはもちろん作る予定です！

第六回戦 葛木カムイvs吉川ちなつ

第六回戦、葛木カムイと吉川ちなつのファイトが始まった。

「ブラウコンガー！」

「リザードソルジャー・コンローー！」

「へっ！ 相手が櫂と同じかげろうでも手加減はしないぜー！」

「その天狗になつた鼻をへし曲げてあげるわー 先攻は私から、私のターン！ ドラゴンモンクゴジョーにライド！ コンローはリアガードに移動し、『ゴジョーの効果でレストし、手札のかげろうを1枚捨てカード1枚ドローするわ。私のターンは終了』

「俺のターン！ ブラウパンツァーに俺様ライド！」

いつものように俺様ライドでブラウパンツァーにライドすると、ちなつがクスクスと笑う。

「俺様ライド……ふふ」

「何がおかしいんだ」

「いや、なんだか子供っぽくて可愛いなあつて思つただけよ

「な！ そ、そ、そんなこと言つたつて俺を困惑させても無駄だ！」

「少し顔が赤くなつてるけれど……」

「まつたく……」

アイチたちも呆れる中、カムイのターンは続く。

「ブラウパンツァーのパワーはソウルにウンガーガーがいるため常に8000！ そして、パンツァーの効果でウンガーガーにライドされた時、山札からブラウクリューガーを手札に加える！ 行くぜ、ブラウパンツァーでゴジヨーにアタック！」

「ノーガードよ」

「ドライブトリガーチェック、トリガーはなしだ」

「ダメージチェック、こっちもトリガーなしね」

「ターン終了だ」

どちらも順調に進んでいく。その様子を綾乃たちは真剣に見ている。

「な、なんだか今までと雰囲気が違うわね……」

「ああ、今までの明久たちのバトルよりもすこいことになりそうだぜ」

「私のターン、ベリコウスティードラゴンにライド。そしてコンローの効果を使い、退却させて山札からワイバーンガードバリイを手札に加えるわ。そして鎧の化身バーにコール。行くよ、カムイ君！ バーのブースト、ベリコウスティードラゴンでブラウパンツァーにア

タック！」

「ノーガードだ！」

「ドライブチェック、ドロートリガー！ カード一枚引いてパワーはベリコウステイに！」

ヴァンガードの攻撃が当たり、カムイのダメージは1となる。

「さらに、ベリコウステイドラゴンの効果！ さつき、コンローのカウンターblastで使った裏のダメージは表にする。これでターン終了よ」

両社とも互角の勝負。これをアイチたちも京子たちも真剣に見ていた。

「ちなつさん強い……」

「どっちもまだ大きな動きはない

「あのノヴァの子やるなー」

「おー。ちなつおねーちゃんがんばれー」

「俺のターン、ブラウクリューガーに俺様ライド！ 俺はストリート・バウンサー、デスマーミーガイをコール！ ストリート・バウンサーの効果！ 同じ後列のデスマーミーガイをレストし、カードを1枚引く。行くぜ！ ブラウクリューガーでベリコウステイドラゴンにアタック！」

「ノーガード」

「ドライブトリガーチェック、トリガーじゃないが、引いたカードはグレード3のアシュラカイザー。デスマーミーガイの効果でスタンドする!」

攻撃がヒットし、さらに「デスマーミーガイがスタンドする。

「デスマーミーガイのブースト、ストリート・バウンサーでヴァンガードにアタック!」

「ノーガードよ」

ダメージはこれで3枚目になり、カムイのターンは終了する。

「ふん! ちなつもなかなかやるけれど、俺様ほどでもないな」

「ふふ。ここからだよ、カムイ君! 私のスタンド&ドロー! ドラゴンモンクゴクウにライド!」

「ドラゴンモンクゴクウ……!」

「ゴクウにライドした瞬間、カムイは息をのむ。ドラゴンモンクゴクウはちなつの強力な切札であった。

「せりに、ドラゴン・オーバーロード、鎧の化身バー、ドラゴンナイトネハーレンをコール!」

「あ、オーバーロード!?」

「だから言ったでしょ。ここからが本番なんだって。オーバーロードのカウンターブラスト！ パワーは+5000し、リアガードにヒットすればスタンンドできる効果を得る！」

「く……！」

いきなりの展開にカムイは戸惑い始めてしまった。ここからがちなつの攻撃が始まる。

「バーのブースト、ゴクウでブラウクリューガーにアタック！」

「の、ノーガード……」

「ツインドライブ、ファーストチェック、クリティカルトリガー！ クリティカルはゴクウ、そしてパワーはオーバーロードに！ セカンドチェック、トリガーじゃないけれどグレード3のオーバーロード！」

「なー？」

「ゴクウの効果でデスマーミーガイを退却！」

ゴクウの効果によりデスマーミーガイは退却される。しかも今残っているのはオーバーロードとネハーレン。
さらなる攻撃が続く。

「バーのブースト、オーバーロードでストリート・バウンサーにアタック！」

「ぐ……（まだ手札にはアシュラ・カイザーとシユテルン・ブラウ

クリュー・ガードがいる……。でも、他はガードに使うグレード〇にブーストを使うグレード一もあるしな……。でも、ここは守るか……！） プロメテウスとクララ、そしてスリー・ミリッジでガード！』

攻撃を防ぎ、オーバーロードの攻撃を止めた。

「なら、ネハーレンでブラウクリュー・ガードにアタック！」

「ノーガード」

ダメージは4枚目。若干カムイが押され気味であった。

「ターン終了よ」

『ごり押しで守つたためカムイの手札は4枚。ちなつはまだ6枚といつまだ余裕であった。

「俺のターン！ 行くぜ！ 超俺様ライド！ 絶対無敵アーマー激誕！ シュテルン・ブラウクリュー・ガード！」

「来たわね、シュテルン・ブラウクリュー・ガード」

「さらに、アシュラ・カイザー、ダンシング・ウルフをコール！ このターンで決めるしかないか……。アシュラ・カイザーでネハーレンにアタック！」

「ノーガード」

インターフェースを封じるために、ネハーレンを倒す。そして、シュテルンの攻撃が始まる。

「行くぜ！ ダンシング・ウルフのブースト、シュテルン・ブラウクリュー・ガードでドラゴンモンクゴクウにアタック！」

「ノーガードよ」

「ツインドライブ、ファーストチェック、セカンドチェック……！ クリティカルトリガー！ クリティカルはシュテルンに、そしてパワーはストリート・バウンサーに！ 行け！ スターダスト・シユーティング！！」

攻撃はヒットし、ダメージは4となり、5枚目はヒールトリガーのため、ダメージは4枚のままであった。パワーはオーバーロードにやつた。

「ちい……なら、ストリート・バウンサーでゴクウにアタック！」

「ノーガード」

「ターン終了……」

「カムイ君……」

ここにはシュテルンの効果を使うのだが、ちなつはさつきワイヤーナガードバリイを手札に加えているため、使わなかつた。

「吉川さんすごいわね……。あんな強そうな子相手に……」

「カムイがあんなに押されるのは櫂のファイト以来か……」

「私のターン、スタンド＆ドロー。……ふふ、ノーガードした意味わかるかな？」

「ノーガードの意味って……あ！」

ちなつのダメージは5枚だが、表側は3枚あった。つまり、再びオーバーロードの効果が使えるということであった。

「ふふ、私はオーバーロードとアイアンティルドラゴンを『ホール。そして後列がバーのオーバーロードの効果を使う。行くよ、バーのブースト、ゴクウでシユテルンにアタック！』

「ぐ、シャイニング・レディとストリート・バウンサーのインターセプト！」

「ツインドライブ、ファーストチェック、クリティカルトリガー！効果は全部、効果を使っているオーバーロードに。セカンドチェック、またまたクリティカルトリガ－！ これは効果を使ってないオーバーロードに！」

「なに！？」

ダブルクリティカル。これはいつもの権の決めてであるパターンであった。その後もガードするすべもなく、ダメージは6枚目。チームQ4 VS 娯楽部の初戦はQ4の黒星になった。

「勝者、吉川ちなつさん」

「やったー！」

「へんぐ……」

ちなつの勝利となる。二人とも自分のチームに戻つていぐ。特に、カムイはとても悔しそうであった。

「すみません、お兄さん……。俺……」

「ううん。カムイ君も頑張ったよ」

「こしても、ちなつ強い……。」

「これを考えると、たぶん湊達よりはるかにレベルが違つだらうな。この後出てくる歳納に赤座、そして船見、……」

「でも、まだわかりませんよ」

「じゃ、私行つてくれるね」

「ミサキさん、頑張つて」

「うん」

そしてちなつは……

「やつたねー！ ちなつちやーんー！」

「ちよ、京子先輩……。」

「いやー、ちなたん強かつたなー」

「当然よ。結衣先輩や京子先輩にいつぱい教えてもらつたんだから」「ちなつかちゃん、一方的に押してたね」

「それと、次は京子先輩じゃないんですか？」

「あ、そうだね。じゃあ、頑張つてくれるよ」

「きょーたんがんばれーー！」

「おー。きょーじゅねーちゃんがんばー！」

「綾乃ー、私の戦い、ちゃんと見ていくよー」

「言われなくとも、ちやんと見てるわよー。」

「はあ……幸せやー」

「ちよー 千歳ちゃん……！ 鼻血ー 鼻血ー！」

三秒が千歳の鼻血をティッシュでおさえている中、ミサキと京子の2人が前に出る。

「まさか、初戦でカムイが負けちゃうなんてね……」

「いやー、ミサキースに懲められると照れますなー」

「変なあだ名で呼ぶなー。」

「あ、あかりとちなつかちゃん、智花ちゃんたちにガードを教

えたのは私と結衣だから教えていい私が負けたらあの子たちにかかる悪いしね。この勝負、勝ちに行くよ」

（やうだつた……。ふざけているけどおそらく歳納京子も強い……。
だからと言つて私も負けるわけにはいかない！ 全力でいかせても
らうよ。京子！）

ミサキと京子はバッキをシャツフルし、引き直しをした後、準備
が整つ。

「2人とも、準備はできましたか？」

「うん」

「いつでもオーケーだよー」

「それでは第七回戦、戸倉ミサキさんVS歳納京子さんのバトル、
スタートです」

「「スタンダップ、ザ・ヴァンガード！」」

第七回戦 口倉リサキvs歳納原子（前書き）

今年の4月はヴァンガードの一期、7月はゆめみつの一期……！

お楽しみがいっぱいです！！

第七回戦 口倉ミサキVS歳納京子

第七回戦、ミサキと京子のファイトが始まる。

「神鷹 一拍子！」

「イニグマン・フローー！」

ミサキはいつも通りのオラクルシンクタンクデッキ。京子はディメンションポリスデッキであった。

「先攻もううねー。私のターン、イニグマン・リップルにライド！リップルはソウルにフローーがいるのでパワーは常に8000。そして、フローーのスキル、リップルにライドされた時、デッキからイニグマン・ウェーブを手札に加える。私のターンは終了だよ」

「ミサキさんもオラクルね。京子は……なんだかまるでスーパーヒーローみたいね」

「ディメンションポリスや。正義の味方のクラシック

「相手は順調なすべり出しだな……」

「『』はねーちゃんには勝つてもうまなこと」

「あのカムイが負けたしな。あとに出てくる子たちも強いだろーな

綾乃たちの会話が続く中、ミサキのターンに入る。

「私のターン、神鷹一拍子のスキル。デッキの5枚をめぐり、その中に三田月の女神ツクヨミがいればスペリオルライドできる。よし、三田月の女神ツクヨミにライド！ 行くよ、三田月の女神ツクヨミでリップルにアタック！」

「ノーガード」

「ドライブトリガー・チェック、トリガーはなし」

ツクヨミのパワーは7000のため、攻撃は通らなかつた。

「ターン終了」

「私のターン、イニグマン・ウェーブにライド！」

ウェーブのスキルでソウルにリップルがいればパワーは10000。

「残念だつたね、ミサキーヌ。さつきの攻撃が通らなかつたのは痛いよ」

「勝負はまだ始まつたばかり。私は負けない！」

「威勢はいいね。でも、私だつて負けないよ！ パープルたんのために！」

「ほんとにパープル好きだな……」

パープルとはパープル・トラピージストのことである。そして今回のチーム大会の優勝賞品である。パープルのためなら必死の京子に呆れる結衣。

京子のターンは続く。

「さりに、マスクドポリス・グレンダー、グローリー・メイカーをコール！ これで準備は整つたから、マスクドポリス・グレンダーで三日月の女神ツクヨミにアタック！」

「ノーガード」

攻撃を受け、ミサキのダメージは1枚目。

「さりに、グレンダーのスキルでウェーブのパワー + 2000！ グローリー・メイカーのブースト、イニグマン・ウェーブで三日月の女神ツクヨミにアタック！」

「ノーガード」

「ドライブチェック、トリガーはなし」

ミサキのダメージは2枚目となる。

「ターン終了」

「あ、おーおー……ねーちゃんが押されてんじゃねえか……」

「あのリボンのダメージはまだ。これはちょっときついな……」

「ミサキさん……」

「私のターン、三日月の女神のスキル、山札の上から5枚を見て、半月の女神ツクヨミがいれば、スペリオルライドできる。……ない。

なら、手札から、半月の女神ツクヨミにライド！

手札からライドし、スキルで山札の上から2枚をソウルにおく。

「サイレント・トム、オラクルガーディアン・ジョンニー、バトルシステムーここあをホール！ ここあのスキルで山札の一一番上を見る。そして山札の上か下に置く。これは下」

順調にいつているようだが、ミサキは焦っていた。それは手札に満月の女神ツクヨミがなかつたからだった。

（満月の女神がない……。このままじゃ、京子に押されるばかり……）

それでも今は攻めるしかなかつた。

「ここあのブースト、半月の女神でイーグマン・ウェーブにアタック！」

「ノーガード」

「トリガーチェック、クリティカルトリガー！ クリティカルは半月の女神に、パワーはサイレント・トムに！」

ようやく京子にダメージ2を与える。

「ジョンニーのブースト、サイレント・トムでイーグマン・ウェーブにアタック！」

「サイレント・トム厄介だなー。ノーガード」

攻撃が通り、京子のダメージは3枚目。ようやく追い詰めた。

「ターン終了」

「私のスタンダード&ドロー。行くよ、世界の平和を守るために、すべての悪に立ち向かえ！」ライド！ イングマン・ストーム！！

ライド台詞を言いつつ、イニグマン・ストームにライドされる。すると、京子がこんなことを言いつに出したくなる。

「もしかして、満月の女神がなくて困つてるので？」

「えー？」

「表情でもうバレバレだよ。さつきから難しい顔をしていたし」

「ーー」

ミサキは思わずドキッときつい感じてしまつ。京子にはもう満月の女神がないことをばれてしまつたからであった。

「だからと言つて、手加減はしないよ。イニグマン・ウェーブ、コマンダー・ローレル、カレンロイド・ディジーをホール。こつからが私の攻撃だよ。グローリー・メイカーのブースト、イニグマン・ストームでサイレント・トムにアタック！」

「サイレント・トムから……ノーガード」

「ツインドライブ、ファーストチェック、セカンドチェック、スタ

ンドトリガー！ パワーはイニグマン・ストームに、後列のグローリー・メイカーをスタンドっと

攻撃がヒットし、サイレント・トムが倒される。すると、森川がクスクスと笑い始める。

「ふふ、アイツバカだな～。なーんでイニグマン・ストームにパワーでグローリー・メイカーをスタンドさせるんだか」

「森川、きもいぞ」

「いや、ちゃんと意味があるんだなこれが」

「え？」

「！」でコマンダー・ローレルのスキル。ヴァンガードが攻撃にヒットした時に、自分のリアガード4体レストし、ヴァンガードをスタンドさせる！』

「何！？」

「ヴァンガードをスタンド！？」

スタンダされ、再びイニグマン・ストームの攻撃が襲い掛かる。

「ふふ、トリガーでパワー上げているからストームのクリティカルは2。行くよー！ グローリー・メイカーのブースト、イニグマン・ストームで半月の女神ツクヨミにアタック！」

「ノーガード」

「ツインドライブ、ファーストチェック、セカンドチェック、トリガーハなし」

ヴァンガードに攻撃がヒットし、ダメージは一気に4枚目となつた。

「ターン終了」

「手札があんなに……」

「ミサキさんが押されてる……」

アイチたちも心配する中、ミサキもまだ負けてはいなかつた。

「（強い……。でも、私だって負けない！）私のターン、スタンド&ドロー。半月の女神ツクヨミのスキル」

半月の女神のスキルを使い、満月の女神がないか見るが……

「……満月の女神がない……。なら、手札からCEOアマテラスにライド！」

やむを得ず、CEOアマテラスにライドする。

「アマテラスのスキル、ソウルチャージし、山札の一一番上を見る。これは一番下に。メテオブレイク・ウィザード、戦巫女 タギツヒメ、オラクルガー、ディアンジョミニを『ホールー 行くよ！ ここあのブースト、アマテラスでイーグマン・ストームにアタック！』

「ふふん、ダイヤモンド・エースの完全防御！ 手札からトイメン
ショーンポリス一枚捨てるね」

「ツインドライブ、ファーストチェック、セカンドチェック、トリ
ガーはなし」

トリガーはなかつたが、2枚目が満月の女神ツクヨミがあつた。

「（よし、これで……）ジヒミーのブースト、ウイザードでイニグ
マン・ストームにアタック！」

「ノーガード」

「ジヒミーのブースト、タギツヒメでアタック！」

「これはマスクドポリス・グレンダーとイーブマン・ウェーブのイ
ンターセプトでガード」

京子のダメージは4枚目となる。ミサキのターンは終了する。

（手札には、サイキック・バード2枚とオラクルガーディアンワイ
ズマンに満月の女神ツクヨミー。これで、京子に……！）

「ふつふつふ、満月の女神引いたね。でも、残念。これで私のファ
イナルターン！」

「え！？」

ファイナルターン宣言し、京子のターンに入る。

「コスモロアーコール。スキル使ってレストし、イニグマン・ストームのパワー + 2000。そして、コスモロアーエ脱却して、コスマビーコール。コスマビーコールのカウンターブラスト、イニグマン・ストームのパワー + 4000！さらにコスマビーコールして、カウンターブラストでイニグマン・ストームのパワー + 4000！これでイニグマン・ストームのパワーは 21000！」

「二、21000！？」

前代未聞のパワー 21000。さらにグローリー・マイカーのブーストで + 10000 で 31000 となる。

さらに、パワーが 15000 以上のため、イニグマン・ストームのクリティカルは 2 であった。

「ふつふつふ、この攻撃を防げれるかな？まずは、カレンロイド・レイジーのブースト、コスマビーコールでタギッヒメにアタック！」

「ノーガード……」

「そして、グローリー・マイカーのブースト、イニグマン・ストームでアマテラスにアタック！」

「まだよ、サイキックバード 2 体とワイヤズマンでガード！」

「ツインドライブ、ファーストチェック、セカンドチェック、クリティカルトリガー！」

「！！」

「効果は全部、イニグマン・ストームに！」

トリガードクリティカルは3となり、パワーは36000。ですが「ミサキのダメージも6枚目になる。

「勝者、歳納京子さん」

「やつた――！」

「負けた……」

「いやー、早く満月の女神にライドされたら負けてたよ。ミサキー又強かつたよ」

「そうこう、京子こそ」

「ありがと」

お互い握手を交わし、自分のチームに戻っていく。

「やつたよーみんなー」

「ほんとにパープル欲しいんだな」

「もううんー」

「つ、次はあかりの番……」

「あかりちゃん、頑張つて」

「あかりんならいけるって！」

「あかりちゃん、頑張つてやー」

「千歳先輩」

みんなの声援にこたえるため、あかりは前に出る。そして//サキは

「「あん、負けちゃった……」

「//サキさん……」

「なんだよ……。俺たちチームO4が2連敗じゃねえか……」

カムイの言つとおり、カムイと//サキで2連敗し、次負けたら相手の勝利となってしまう。

「次負けたら……」

「俺の番だな」

「権君」

「権！ お前、ここで負けたらしようがないぞ！」

さつきからあまりしゃべってこない権の出番だった。

権も前に出る。あかりはとても緊張気味であった。

「あ、あの……」

「赤座あかりと戦ったな。お前の実力、見せせてもらひ

「あ、その……よりしくお願ひします…」

お互に「チキをシャツフルし、5枚引いて引き直しを終えると準備が整う。

「2人とも準備はいいですか？」

「ああ」

「はい」

「それでは第八回戦 権トシキ君VS赤座あかりさんのバトル、スタートです」

「「スタンダップ、ザ・ヴァンガード!!」」

第七回戦 口倉//サキvs歳納原子（後書き）

カムイ君と//サキさんのファンのみなさん、負けをせて申し訳ありません！

次回はこよこの櫻の番です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9851z/>

~双剣覚醒発売記念企画~ バカとイメージと先導者VSゆるい口ウきゅーふ

2012年1月12日20時49分発行